

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400130	
法人名	社会福祉法人宝樹	
事業所名	グループホームニコニコット	
所在地	千葉県市原市有秋台2-4-10	
自己評価作成日	平成28年11月28日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成28年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームニコニコットは、「思いやりの理念」に基づき、入居者との触れ合いを通じて生きる喜びを共有できよう支援している。また、地域行事への参加や障害者・児童との世代間交流を行い、地域住民との関わりや散歩や外出活動等を行い活動的な生活を送ることを大切にしている。食事においては、食品の安全管理に力を入れ、安心して食事ができるようにしている。洗濯、調理、後片付け、掃除等を職員と共同で行い、各入居者が持っている力を活用できるよう支援している。医療面においては、訪問看護ステーションと24時間連携し、入居者と健康管理を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームニコニコット」は静かな住宅地の中にあり、2階建ての建物である。施設内はバリアフリーでエレベーターが設置されており、入居者の身体機能に配慮された造りとなっている。今年度は、地域住民によるボランティアの受け入れを定期的に行うと共に、夏祭り、敬老会などへの訪問や同法人の障害支援施設の行事への参加等、地域住民との交流の機会を増やしている。家族に対しては、「ニコニコ通信」を定期発行しており、施設での生活の様子や行事の報告及び案内等の情報を発信しており、家族との信頼関係の構築・施設の理解促進向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの心」という理念のもと、入居者が安心して地域で生活できるよう支援している。事務所や正面玄関入口に理念を掲示し、職員全員が共有し実施している。	「思いやりの心」等を主眼とした施設理念を掲げ、事業所内に掲示すると共に、入職時や申し送り時等を利用し、定期的に理念に立ち返る機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民と散歩等の外出時に挨拶を交わしたり、地域のお祭りや公民館、図書館、買い物等に出かけ地域との関係性を築いている。その他、同法人の障害者支援施設及び保育園と交流している。	日頃から地域住民とは挨拶・声掛けを交わす関係を築いていると共に、地域行事への参加・ボランティアの受け入れ等を行い、地域との交流を推進している。また、母体施設の障害者施設や保育園との交流も行われており、世代間交流にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、入居者の生活状況を報告し、地域住民の認知症に対する理解を普及できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催。市の担当職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地域の代表者、入居者、家族、職員で構成し、状況報告、活動報告、意見交換をしてサービス向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催しており、地域包括支援センター職員・民生委員・地域ネットワーク会長・家族・法人幹部等が出席している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行っており、施設理解促進・サービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議及び議事録提出、日頃のサービスの相談において市町村と連携し、適切な支援を行っている。	日頃から市に対して、随時及び定期的に連絡・報告等を行っており、適切な連携を図っている。また、地域介護事業所の会議に参加しており、市や他の介護事業所との意見・情報交換を行う場を設けている。	

【千葉県】グループホーム ニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策のため、玄関の施錠をしているが、本人の希望に応じて外出機会を作っている。職員間では毎月の会議やサービス担当者会議にて、身体拘束は必要最小限としている。	法人内で身体拘束排除及び高齢者虐待防止における研修を定期的実施しており、職員へ意義の周知・共有を図っている。ユニット間の施錠を行ってはいるが、声掛け・見守り・付き添い等を行い、入居者の自由と安全確保を考慮した適切な支援実現に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の申し送りや会議を通して、入居者や家族、サービスの状況を確認し、虐待をしない支援の実践に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が受講した研修資料を職員間で共有し共通認識できるようにしている。また、入居者の状況に応じて、都度、市の職員に相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を用いて内容について利用者及び家族に十分説明を行い、疑問等について納得できるよう説明を重ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時やケアプラン更新時、日常の利用者との生活、家族面会時、電話でのやりとりにおいて意向を確認している。また、運営推進会議において、入居者及び家族が地域の外部者に意見を表出できるようにしている。	家族の訪問時・電話連絡時や運営推進会議等を活用して、意見・要望の把握に努めている。挙げた意見・要望においては会議や申し送り等を活用し、周知・検討の上、適切な改善に努めている。定期的に「ニコニコ通信」を発行しており、家族との信頼関係の構築・施設の理解促進向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議及びユニット会議、日々の申し送りを通して職員と意見交換をし、サービスの質の向上に努めている。職員の個別相談にも応じて安心して仕事ができる環境づくりを行っている。	定期的に会議を開催しており、職員の意見・提案等を確認する機会を設けていると共に、申し送りや会議を活用し、職員への周知・情報の共有に努めている。法人主催の研修への職員の参加の機会も設けており、サービスの向上を目指した人材育成にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が週1回の定期巡回にて管理者及び職員と意見交換をして働きやすい環境作りに努めている。各職員の状況を鑑みて労働時間や日数を調整したり、業績に応じて昇給など待遇面を見直している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を実施したり、申し送りやサービス担当者会議において利用者の状態に合わせたケアを実践できるようにしてサービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設や市内のサービス運営に関する説明会に参加し、同業者との情報交換やネットワーク形成を行って職員のスキルアップを図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や施設サービス計画更新時に日常生活の状況や本人の意向を確認し、安心した生活を送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接や面会、電話、施設サービス計画更新時に、要望を確認して安心した生活を送れるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常の観察や意見交換、申し送り、サービス担当者会議にて本人の生活状況を確認して必要な支援について各入居者に適切な支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者の能力に応じて家事等の活動について共同で行っている。また、入居者の意向や趣味に基づいた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人との関係性維持のために、家族に施設サービス計画の内容を説明したり、運営推進会議に参加する等の機会を勧め、できるだけ面会に来て頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人に馴染みのあるイベント会場、公民館、お店への外出を実施している。また馴染みのある人物や持ち物等との関係性を維持できるよう支援している。	友人・知人・家族の来訪を随時受け付けると共に、外出・外泊も自由となっている。また、希望に応じて、手紙のやり取りも支援しており、馴染みの関係継続に配慮している。公民館や図書館への外出等、入居者の習慣や趣味を継続して行えるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者が持っている力に応じて、日々の生活において役割分担をして共同生活ができるように支援している。また、テーブル席の位置を考慮し、入居者同士が楽しめるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者が他施設に入所となったことを確認し、その後の支援は行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し送り、サービス担当者会議等において職員間で各利用者の思い、暮らし方の希望、意向の把握と共有に努めている。また、日常表情やしぐさを観察し、対話、生活歴、家族、他事業所から情報収集をしている。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、必要に応じて、医療機関・他事業所から情報提供を受ける等、より詳細な情報の把握に努めている。また、会議や申し送り等を活用し、意見・情報交換を行い、本人・家族の意向に沿った支援の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス担当者会議、職員会議、申し送り等にて各利用者の生活歴、馴染みの暮らし方、本人の意向を把握し、本人の意向に沿った暮らしの支援に努めている。		

【千葉県】グループホーム ニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前は、本人、家族、他事業所等から情報を頂き、入所後は日常の観察や対話、申し送り、職員会議、サービス担当者会議において、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員と利用者及び家族との関わりから、本人や家族の生活に対する意向、生活状況を把握し、サービス担当者会議における意見交換にて現状を把握し、それに即した介護計画を作成している。	本人・家族の意向を基に、職員間で検討しながら介護計画の作成を行っている。定期的な目標の達成状況の確認及び評価を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。入居者の趣味や特技・身体状況や残存能力の把握に努め、現状に即した介護計画の作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の状況について介護記録に記入、また職員会議議事録にて、職員間で情報を共有している。介護計画の更新における資料としても、個人記録、議事録を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて訪問理美容の利用支援や図書館、地域イベント参加のため等の外出支援、郵便局、銀行、地元支所等地域の社会資源の使用、病院受診の同行支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に応じて地域の納涼祭や文化祭、外食等外出を支援している。また、同法人の障害者支援施設の夏祭りやクリスマス会、保育園との世代間交流等の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に即して訪問看護ステーションの主治医と連携して医療が受けられるように支援している。また、本人の状況や本人と家族の希望に応じて他科受診の支援をしている。	希望の医療機関への受診及び必要に応じて内科医による往診を実施しており、適切な医療受診を支援している。また、訪問看護師による健康管理・服薬管理等も行っている。定期的に柔道整復師によるマッサージを実施しており、身体機能の維持・向上に繋げている。他にも、法人理事長が医師であることから、緊急時の対応も可能となっている。	

【千葉県】グループホーム ニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康観察から利用者の状態変化を把握し訪問看護ステーションに連絡、相談し、看護師の意見に基づいて受診や臨時薬服用等適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、病院の医師・看護師等の職員に情報提供し、その後の経過を把握しつつ情報提供をして頂く等連携をとり、状態把握に努めている。また、退院後の生活に備えて担当者会議や生活環境の整備等の支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期支援は体制が整わず実施できていない。訪問看護利用にて24時間連絡体制を確保しており、今後の終末期支援導入に向けて検討している。重度化した場合、本人や家族の意向を確認し、他施設利用、入院を希望した場合、それに応じて支援している。	重度化・終末期における施設方針を掲げており、契約時に説明を行うと共に、延命希望同意書も交わしている。急変時には医師・看護師とは24時間の連絡が可能となっており、適切な対応が取れるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に、職員にマニュアルを配布したり、申し送りや職員会議にて、急変や緊急時の対応に備えている。事業所内にも連絡体制マニュアルを掲示し有事に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。災害時の備品については、法人施設から支援を受けられる体制になっている。また、井戸水の利用ができるため、災害時の生活用水の確保ができています。	スプリンクラー・自動通報器・火災報知器等の消防設備を設置していると共に、定期的な避難訓練及び設備点検を実施している。訓練では消防署立会い訓練・夜間想定訓練等を行っており、状況に応じた避難方法の確認を行っている。	避難訓練の記録や報告書については現在、法人に保管されているが、今後は様々な状況に応じて確認が必要となる書類については、施設にて保管を行い、適切な情報の共有・把握に繋げていただく事を推奨します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りや会議で、事業所の理念にある「利用者への感謝と尊敬の念」を職員間で共有できるようにして、各利用者を尊重した言葉かけにて丁寧に対応している。また、利用者の自尊心やプライバシーにも配慮している。	個人情報法保護及びプライバシー保護に関するマニュアル整備・研修の実施を行っており、職員への意義の周知を図っている。研修では施設理念の確認を実施しており、職員の意識向上に取り組んでいる。その他にも希望に合わせた同姓介助の実施等を行っており、プライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症を理解するための内部研修実施や申し送り等において、全職員に利用者が意向を表出できる関係づくりに取り組んでいる。計画作成担当者もケアプラン更新時に意向を確認して職員間で共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶、間食の時間は決まっているが、その他の時間は個々の利用者のペースで過ごしている。職員が身体清潔等の支援をする際も、本人の意向を確認し、利用者本位のサービスに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者や家族の希望に応じて訪問理美容の利用支援を行っている。服装については、気象状況を考慮し職員が協力して行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や能力に応じて、職員と協働し食事の準備や片付けをしている。利用者の希望を確認しつつ、外食の支援や行事食を提供し、食事を楽しめるようにしている。	希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまでを入居者と職員が共同で行っている。献立の作成及び食材の配送を業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事が提供されている。また、定期的に外食・特別食・手作りおやつを実施する等、食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、体重の推移を一覧表に記録している。また、訪問看護の助言を受け本人の状態に合わせて栄養、水分摂取に努めている。食事・水分提供の際は、利用者の好みや習慣に合わせている。		

【千葉県】グループホーム ニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が個々の利用者の口腔ケア実施能力を把握し、実施後に職員が確認し、本人の状態に合わせて介助している。口腔内の異変があった場合は、協力医療機関の歯科医に相談し往診をして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録を活用して本人の排泄パターンや表情、しぐさ等を把握しトイレで排泄できるよう支援している。また、本人の状態に合わせて自力では困難なことを介助しつつ最大限自立に向けて支援している。	排泄チェックリストを活用しながら個々のパターンを把握しており、トイレ誘導・声掛けを行う等、排泄の自立を目指した支援に取り組んでいる。夜間においてはポータブルトイレの使用・トイレ誘導を行い、入居者一人ひとりの状況に応じた適切な支援に努めている。必要に応じて、医師・看護師に相談しながら適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録にて各利用者の排泄状況を把握し便秘に対して散歩や運動、ヨーグルト摂取等をしている。また、訪問看護と連携し、状態観察を依頼したり、主治医の指示に合わせて下剤を服用する等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日を予定。都度本人に希望の時間帯を確認し実施している。入浴は週3回と固定せず、本人がその他の日に入浴を希望した場合は、柔軟に対応し本人の希望に合わせて身体清潔支援を実施している。	入居者の体調や希望に応じて、時間や日にかの変更を行う等、入浴機会の確保に努めると共に、必要に応じて、清拭・シャワー浴・部分浴を行い、入居者の清潔保持に取り組んでいる。また、同姓介助を行う等、入居者のプライバシーに配慮した支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の希望や生活習慣に合わせてベッドや布団で就寝できるようにしている。日中は活動をしたり無理のないよう休息できるようにし、不安のため入眠できない場合は職員が対話をして安眠の支援をしている。		

【千葉県】グループホーム ニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者のお薬情報を全職員が確認できるようにして把握している。また、職員が各利用者の処方箋に合わせて服薬支援をしている。健康状態に変化が生じた時には訪問看護に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望や生活歴を把握し、楽しみある生活を送れるようお花の手入れや雑草取り、料理、食後の後片付け、洗濯物干し、洗濯物畳み、散歩、歌、踊り、創作活動等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常において本人の希望を確認し、散歩や買い、外食、図書館、イベント会場への外出、夏祭り、敬老会など地域や同法人の障害支援施設の行事への参加を支援している。また、家族の協力を得てお墓参りや親族との面会にでかけられるようにしている。	日頃から散歩・買物等を実施しており、戸外に出る機会を設けている。また、定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。他に、同法人施設との交流を積極的に行い、外部の人達との楽しみの充実化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望に応じ、利用者本人が自由に使えるお金を事業者内で保管し、利用者の消費活動の支援をしている。買物の際は、職員や家族が同行し必要な支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話の利用を支援している。また、外部からの電話の取りづぎもしている。本人宛の手紙が来た際は、切手や手紙を購入する等して返信できるよう支援している。		

【千葉県】グループホーム ニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて創作活動を実施し装飾して、季節感を取り入れている。共用の空間については、毎日清掃している。トイレは車いす対応型であり人感センサーも設置。アイランドキッチン使用にて発火予防に努めている。避難経路や非常設備も確保している。	共有スペースには椅子・テーブルを設置し、自由にくつろげる環境を整備する共に、写真・作品・季節飾りを掲示する等、明るく楽しい雰囲気作りに努めている。また、施設内はバリアフリーとなっており、エレベーターも設置されており、入居者の安全や身体機能に配慮された環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	階段の踊り場に椅子を設置したり、屋外の敷地内にベンチを置いている。また、ソファを設置し、一人もしくは気の合う利用者同士で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、従来使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂き、居心地良く過ごせるよう配慮している。エアコンや窓の開閉による空調管理をして、快適に過ごせるようにしている。	入居時に本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できるよう配慮している。また、和・洋室仕様の選択もでき、希望に応じてポータブルトイレやテレビも使用可能となっており、生活歴に配慮した居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーになっており、手すり、エレベーターを設置、居室、浴室、トイレの扉を工夫している。居室入口になじみの物や作品を展示する等して、安全かつ能力を発揮して生活できる環境づくりをしている。		